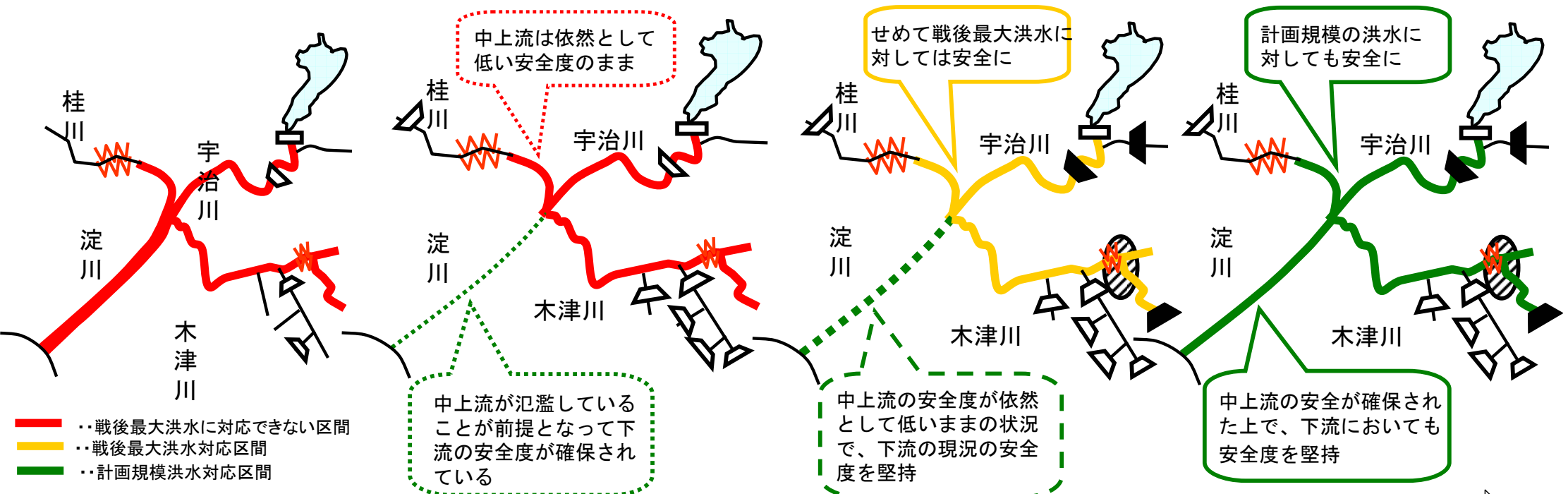
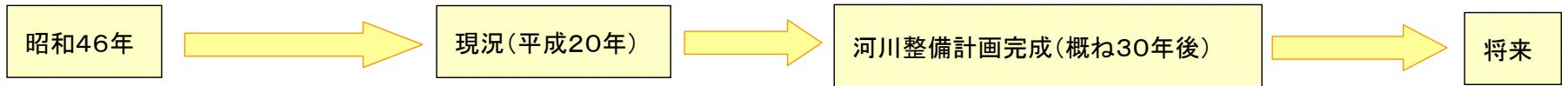


# 淀川水系河川整備計画の策定 に係る諸状況について

平成20年6月6日

国土交通省近畿地方整備局

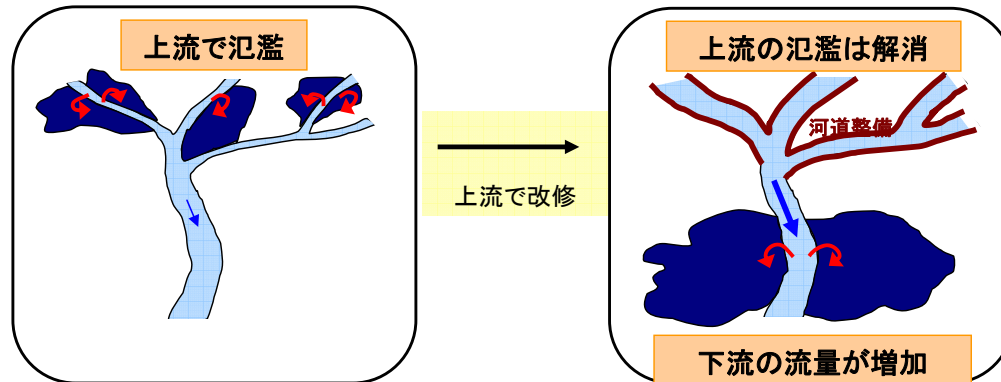
# 淀川水系の治水対策の流れ



下流(淀川本川)から整備

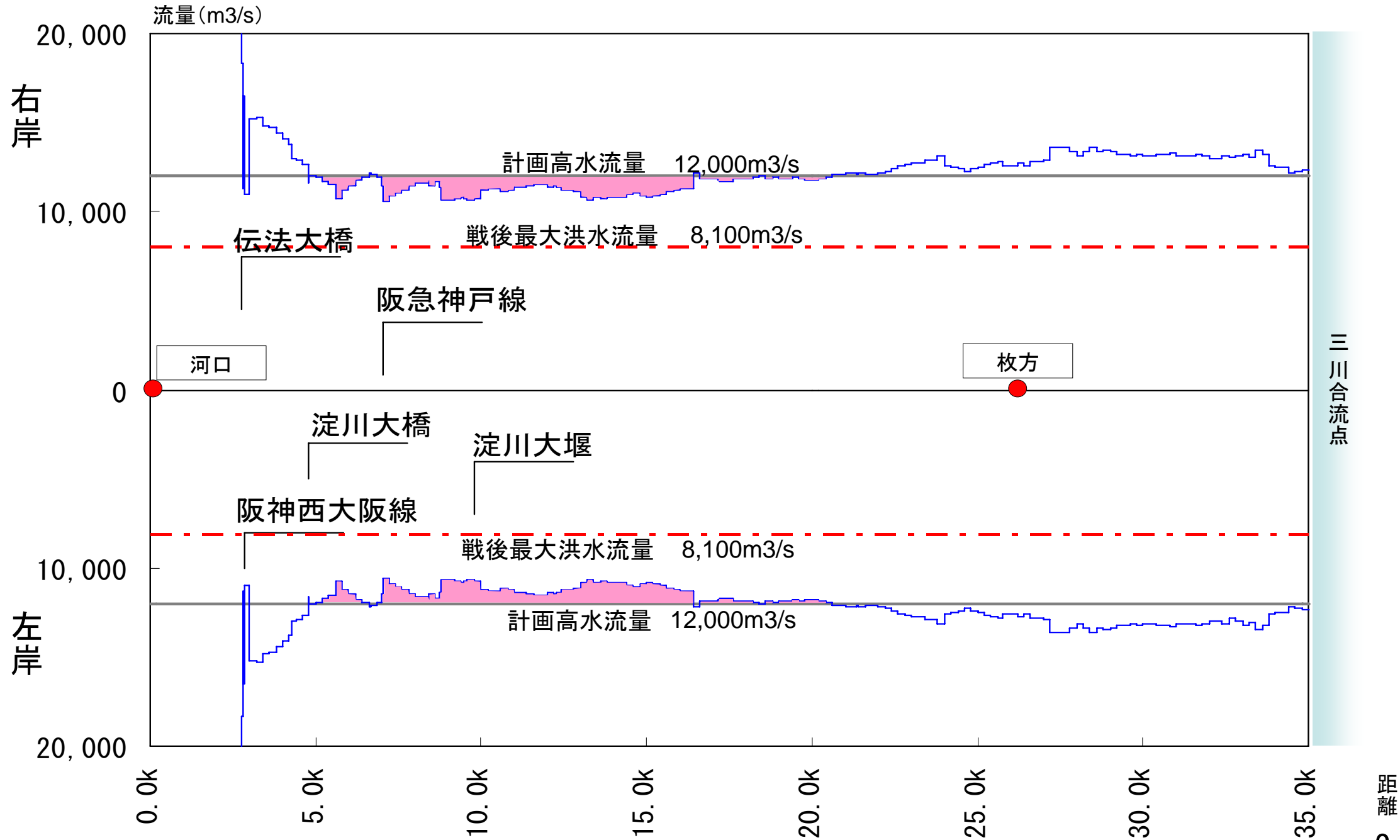
下流に迷惑がかからない(HWLを超えない)範囲で中上流を整備  
HWLを超えないようダムで貯留

さらに、流域全体の安全度の向上



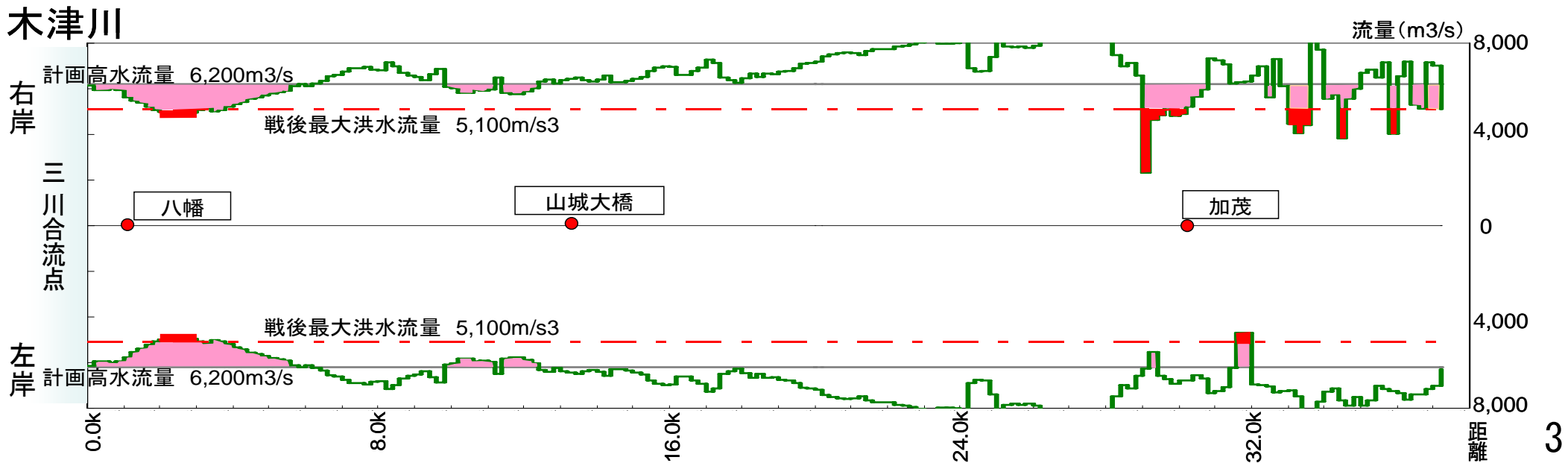
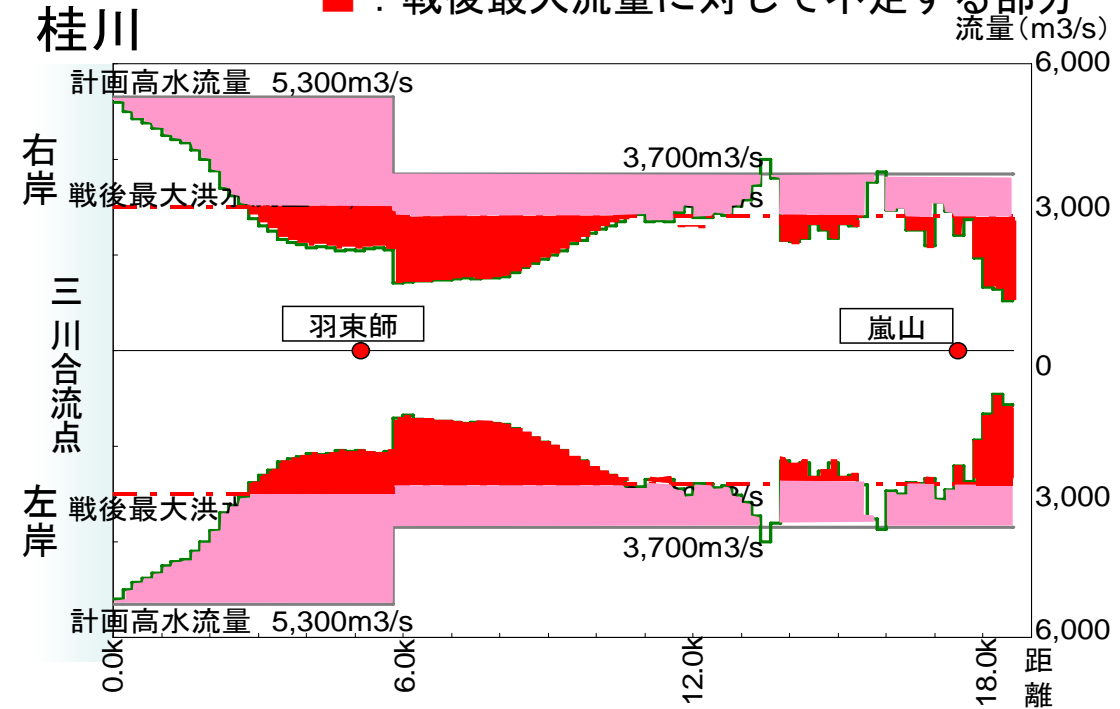
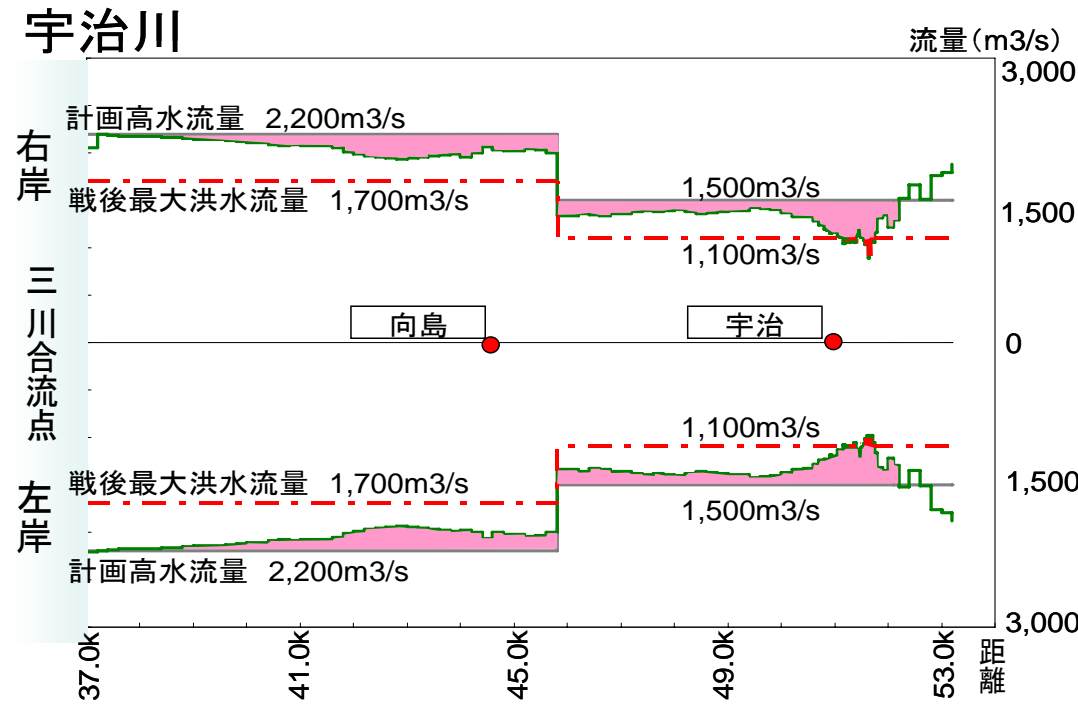
# 淀川本川の洪水流下能力

■ : 計画高水流量に対して不足する部分



# 宇治川・桂川・木津川の洪水流下能力

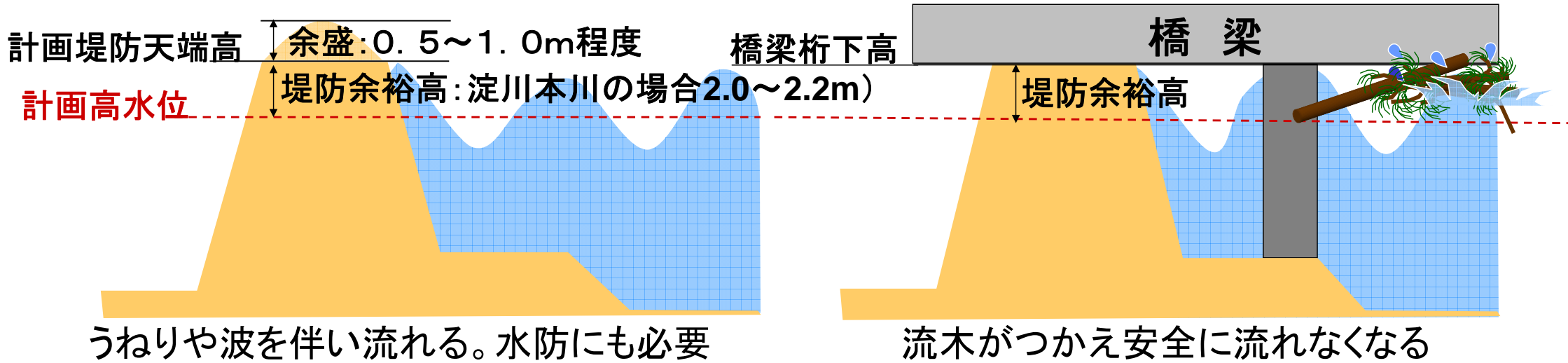
■ : 計画高水流量に対して不足する部分  
■ : 戦後最大流量に対して不足する部分



# 計画高水位と堤防余裕高

○計画高水位 = この水位以下で洪水を安全に流そうと決めた水位

○洪水を安全に流すために堤防余裕高が必要



複数の橋梁で洪水が流れにくくなり水位が上昇

(平成16年福井市: 足羽川)

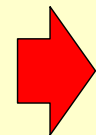
橋桁と橋脚に堆積した流木

(平成16年豊岡市: 円山川)

# 計画高水位を超えると

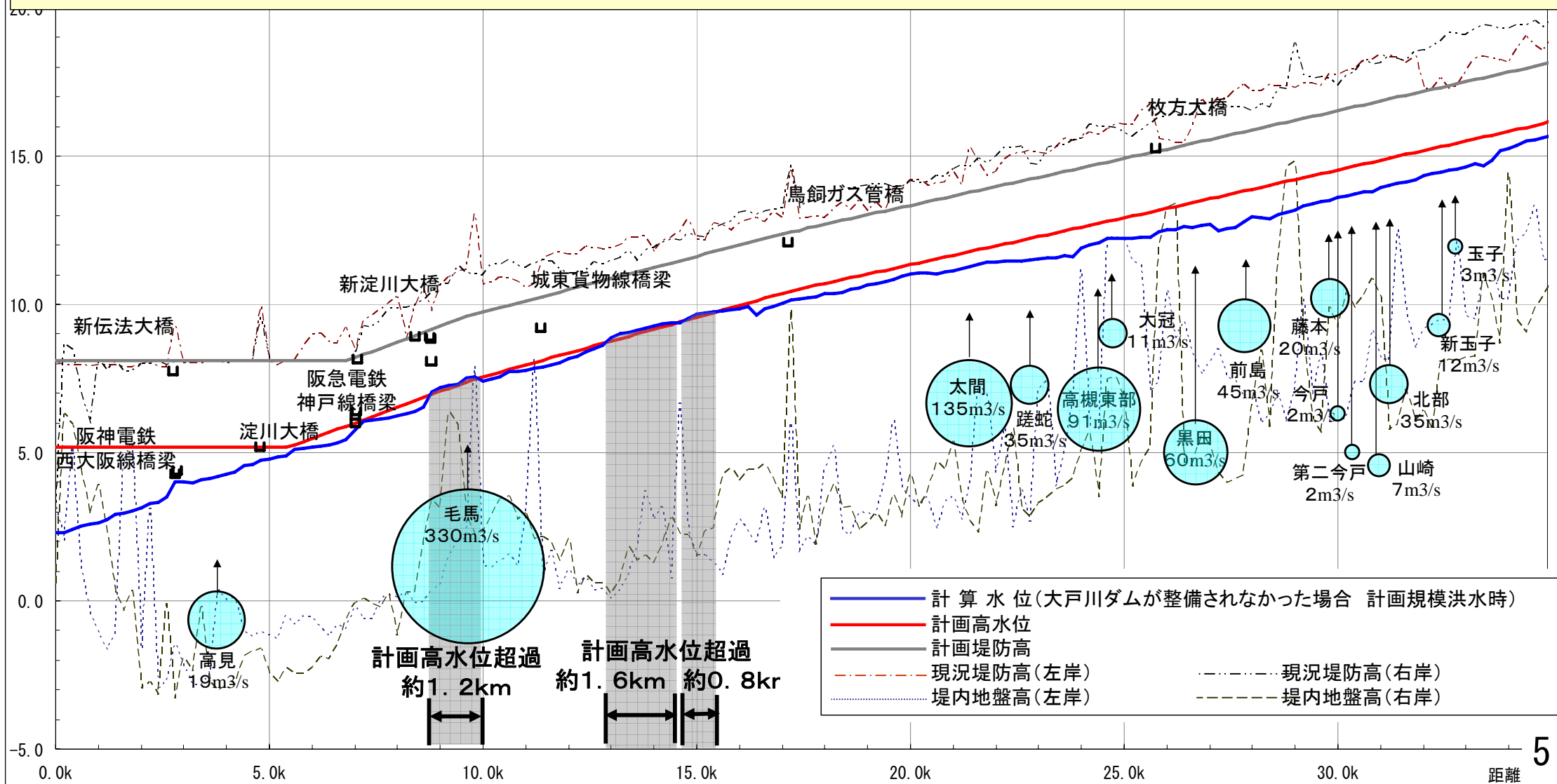
○淀川本川で計画高水位を超えるのは3区間約3.6kmであるが、一部でも計画高水位を超えると、

**35km** 区間にある**全ての排水ポンプ(15機、総排水量807m<sup>3</sup>/s)**を停止しなければならない



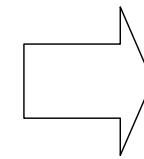
寝屋川からの排水ポンプ(合計465m<sup>3</sup>/s)が停まるだけでも**300億円の被害増**

○15橋梁で洪水を安全に流すための桁下高がさらに不足し、堤防の危険性が増大

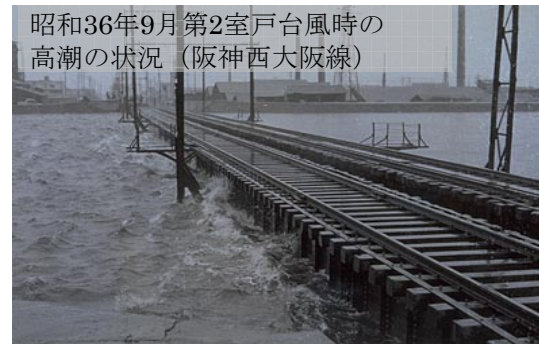


# 計画高水位をあげると

- 堤防余裕高が不足するので堤防嵩上げが必要
- 橋、水門、排水ポンプなどの改築
- 破堤した際にはより大きなエネルギーではん濫

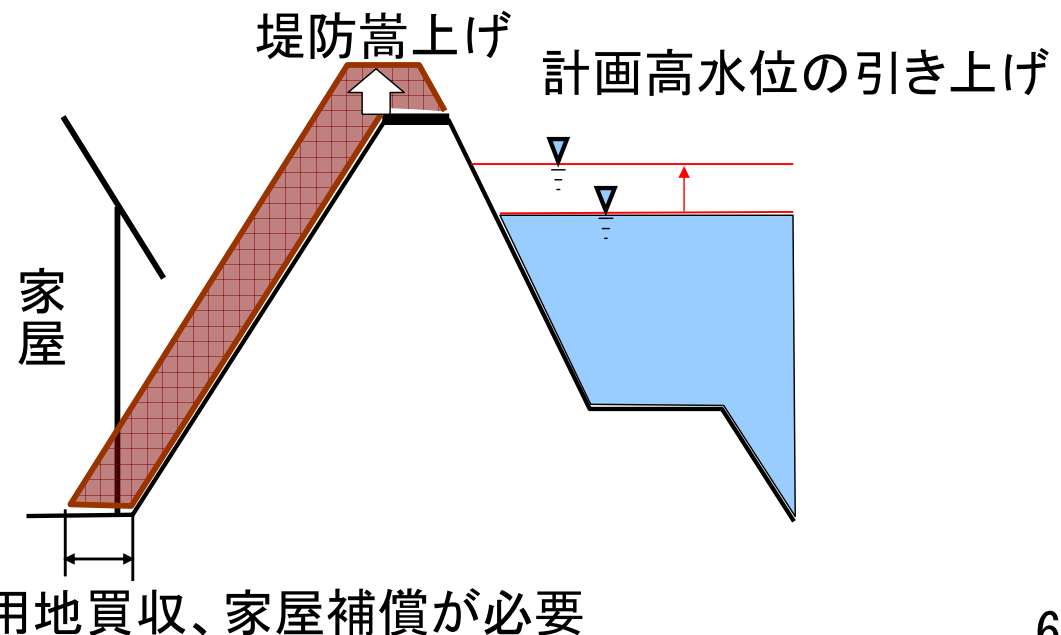
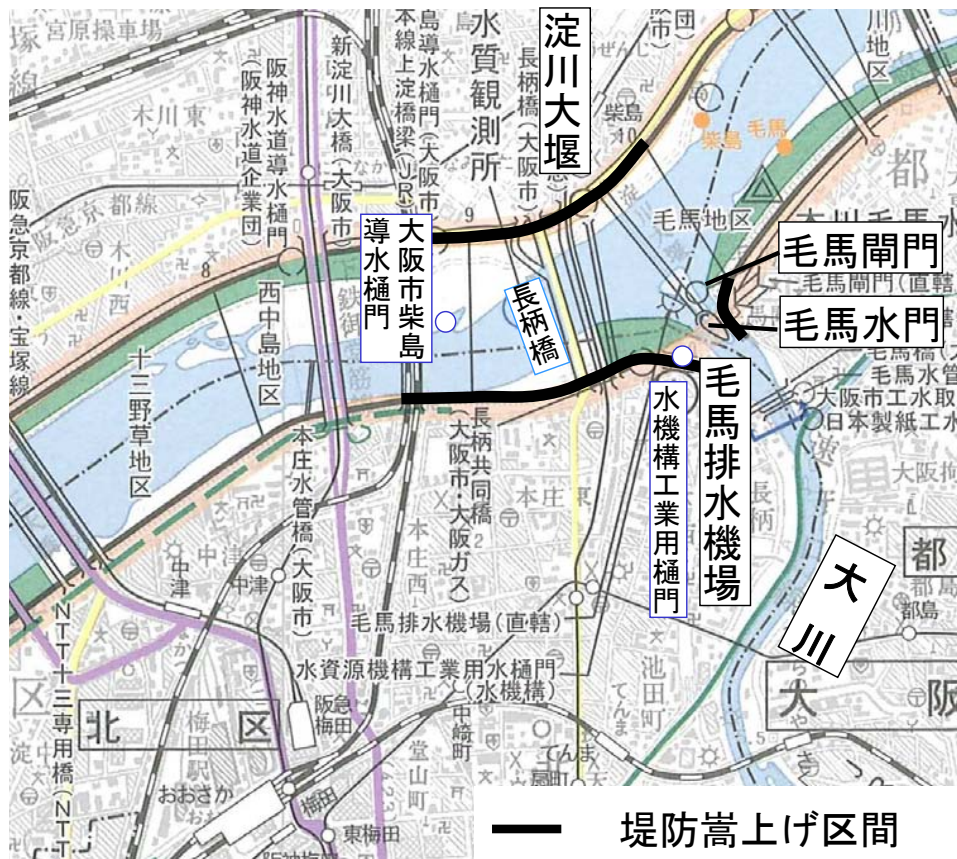


水位を下げる  
ことが原則



昭和36年9月第2室戸台風時の  
高潮の状況（阪神西大阪線）

阪神西大阪線橋梁架替と  
大戸川ダムで水位を下げる  
ことが可能

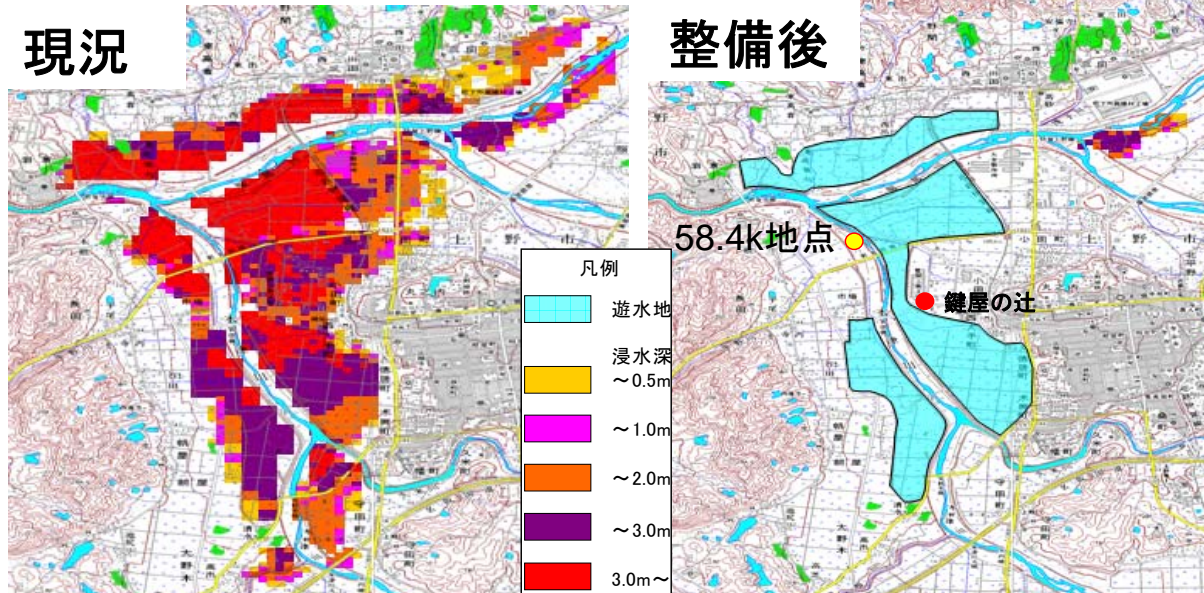


# ダムの効果 (三重県)

戦後最大洪水(昭和28年台風13号)による氾濫状況

現況

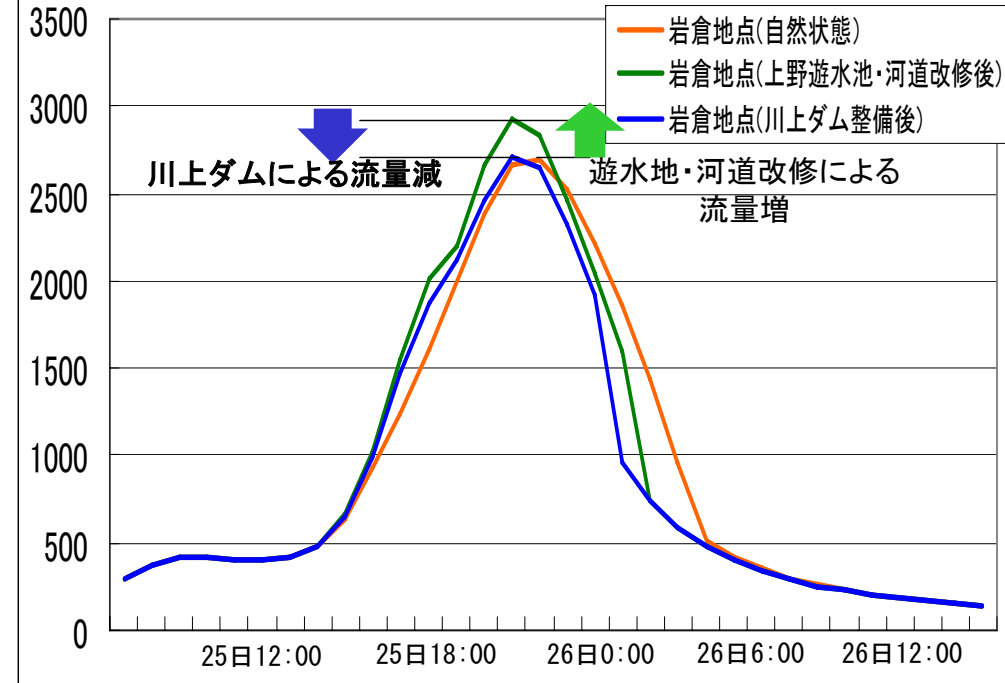
整備後



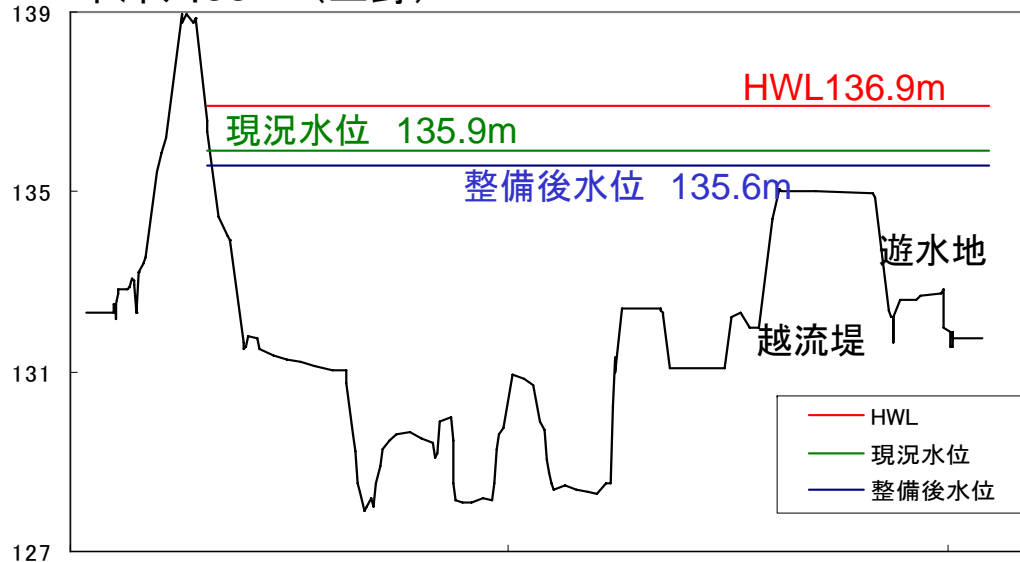
浸水面積 : 515ha 被害額284億円  
 床上浸水 : 437戸 床下浸水 : 266戸

ほぼ被害無し

戦後最大洪水(昭和28年台風13号) 岩倉地点



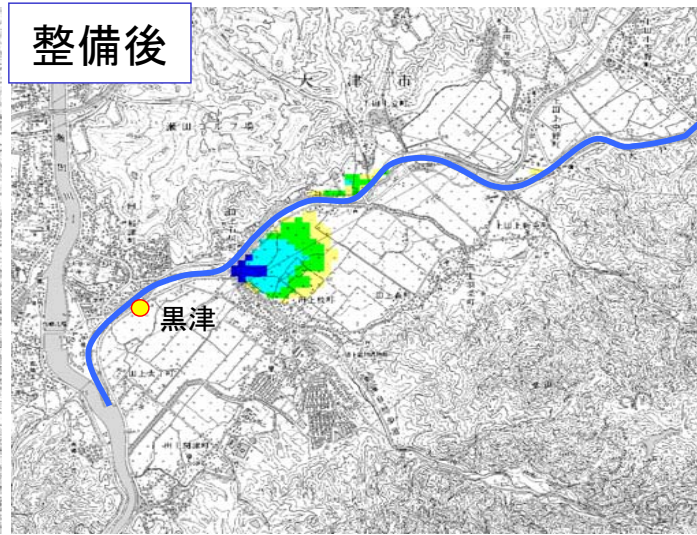
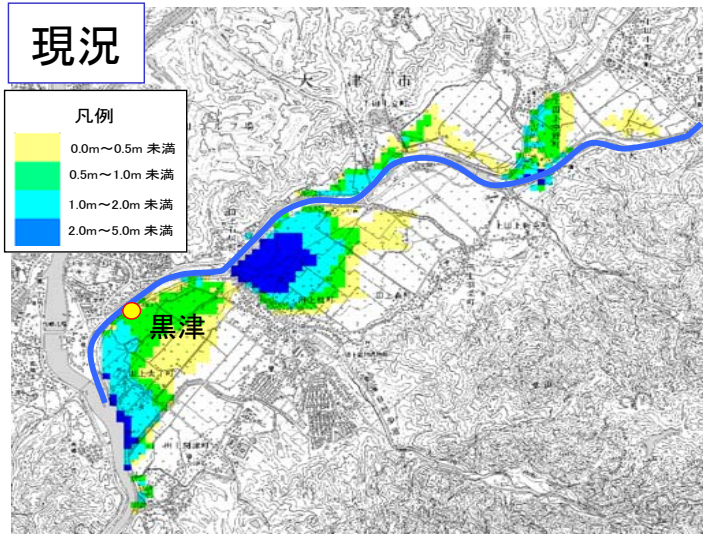
木津川58.4k(上野)



上野地区改修による下流への流量増を川上ダムにより解消

# ダムの効果(滋賀県)

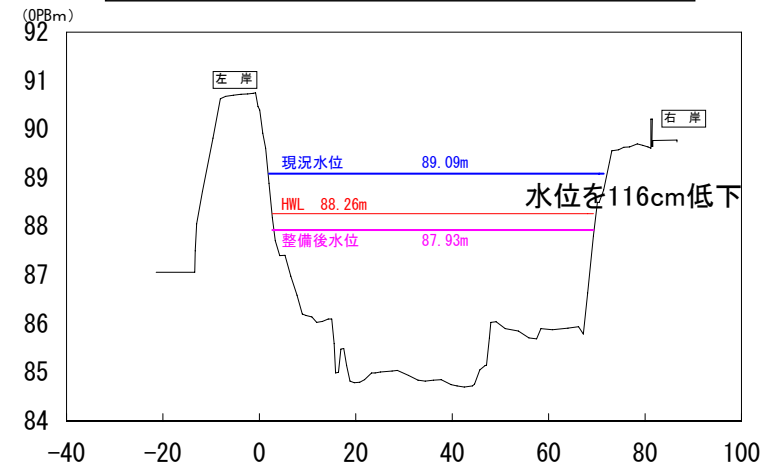
## 戦後最大洪水(昭和57年台風10号)による大戸川流域の氾濫状況



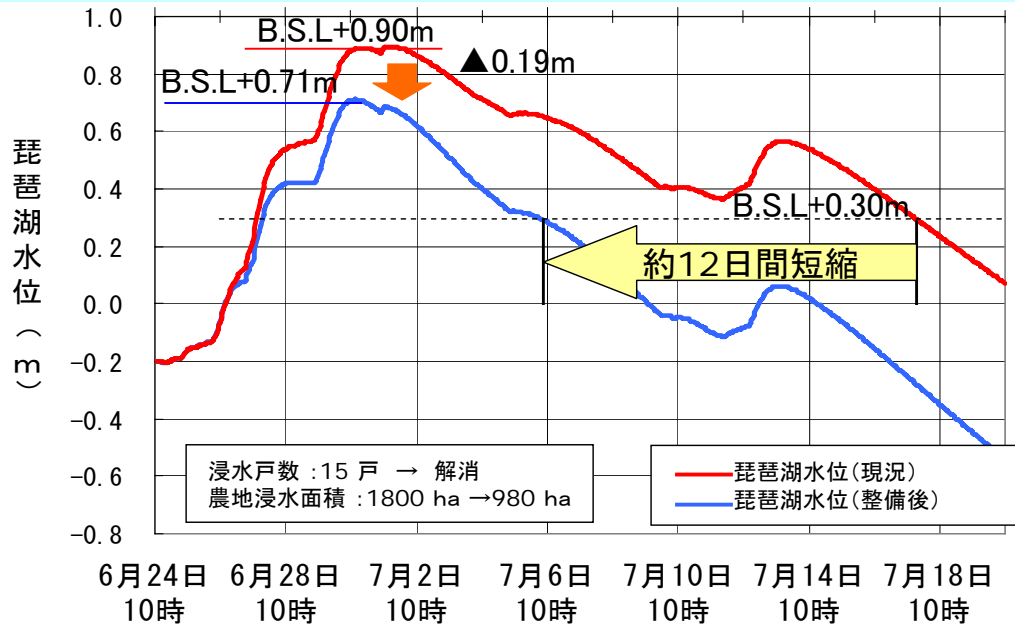
浸水面積:220ha  
 床上浸水:350戸 床下浸水:131戸

浸水面積:45ha  
 床上浸水:13戸 床下浸水:33戸

黒津地点(大戸川 約1km付近)横断面図



## 戦後最大洪水(昭和36年6月洪水)による琵琶湖水位



## 明治29年洪水

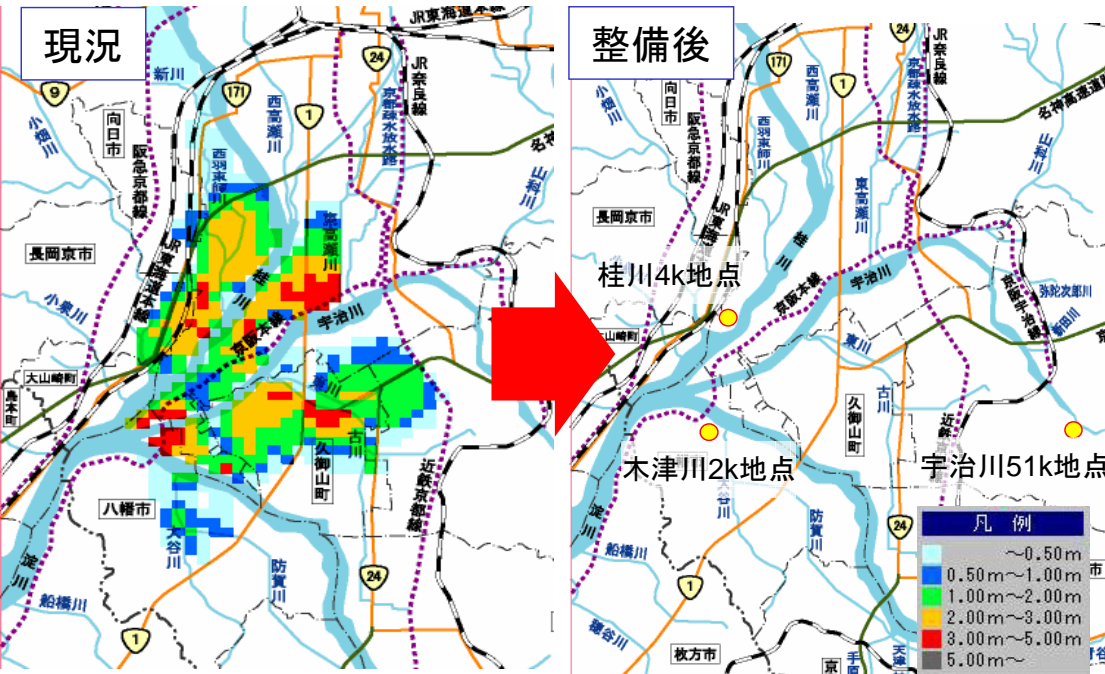
	現況	整備後	効果
琵琶湖ピーク水位	2.53m	2.21m	△0.32m
洗堰全閉時間	6hr	0	△6hr
洗堰放流制限日数	22日	11日	△11日
+30cmを超過する日数	34日	20日	△14日
後期放流日数	43日	27日	△16日

## 琵琶湖計画規模洪水

	現況	整備後	効果
琵琶湖ピーク水位	1.54m	1.4m	△0.14m
洗堰全閉時間	13hr	1hr	△12hr
洗堰放流制限日数	29日	5日	△24日
+30cmを超過する日数	32日	21日	△11日
後期放流日数	37日	24日	△13日

# ダム及び桂川掘削の効果(京都府)

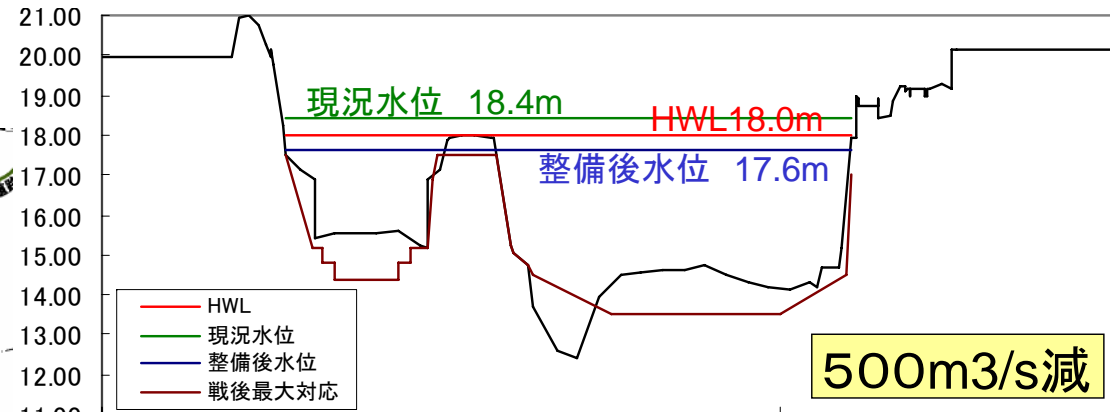
## 戦後最大洪水(昭和28年台風13号)による氾濫状況



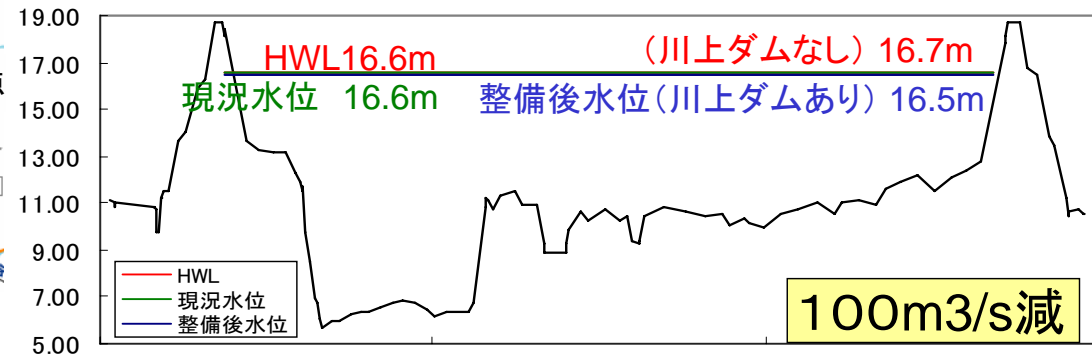
被害額: 約1.3兆円  
浸水家屋数: 約3.3万戸

ほぼ被害無し

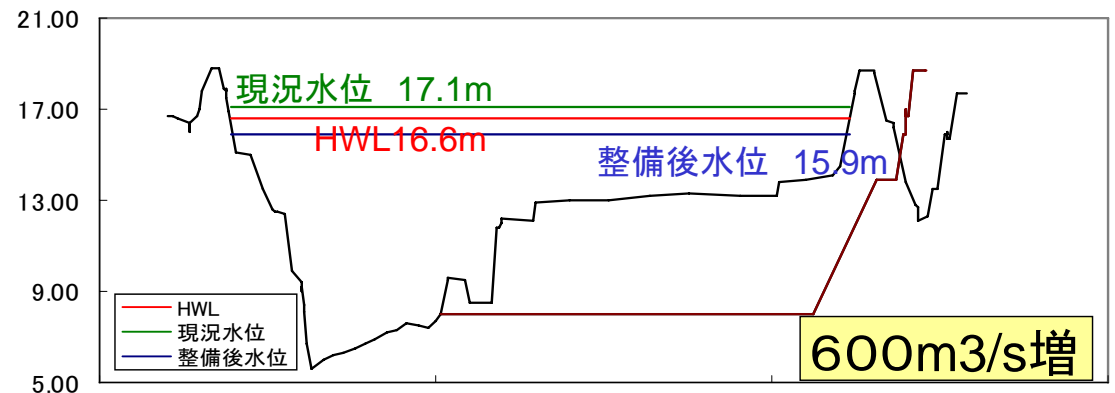
### 宇治川51.0k(塔の島) 1500m<sup>3</sup>/s(計画規模洪水)



### 木津川2.0k(八幡) 4900m<sup>3</sup>/s(戦後最大洪水)



### 桂川4.0k(羽束師) 3600m<sup>3</sup>/s(戦後最大洪水)



# 耐越水堤防について

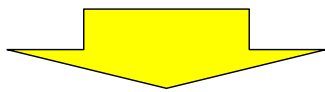
①構造や効果等の技術的説明ができていない

②一箇所破堤しても広域に甚大な被害  
 確実な効果が見込める対策しか採用不可

③施工事例をもとに試算すると対策工法の費用は莫大 加えて支川処理30河川、樋門対策101箇所などが必要

④遊水地には越流堤があるが、壊れた例あり  
 (万が一壊れても周囲堤で浸水が拡大しない)

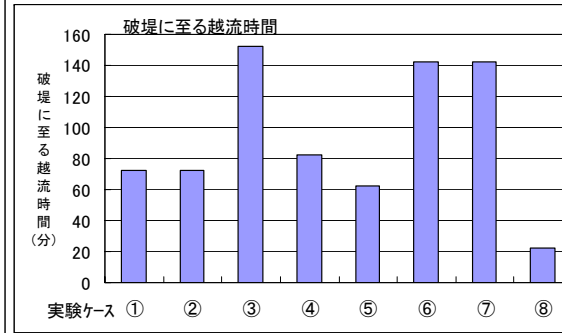
⑤堤防は被災経験などに基づいて川の中を安全に流すものとしては、歴史的に築造



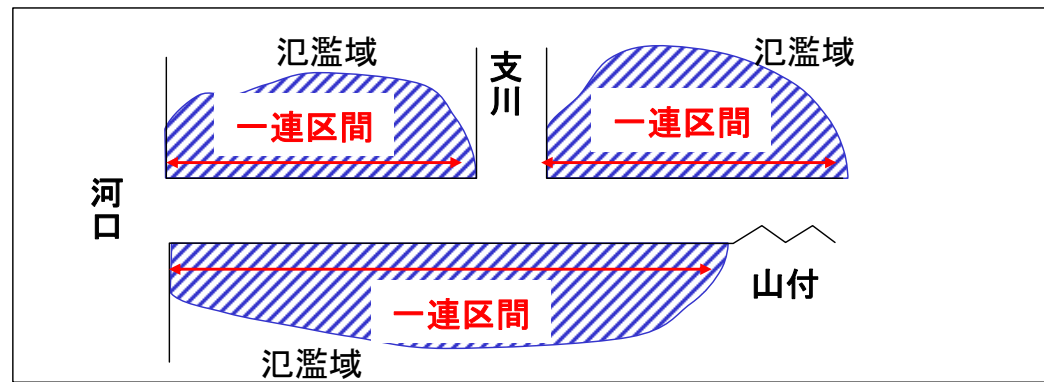
○効果が不明なものに

- ・人々の生命・財産を託すことはできない
- ・多額の費用はかけられない

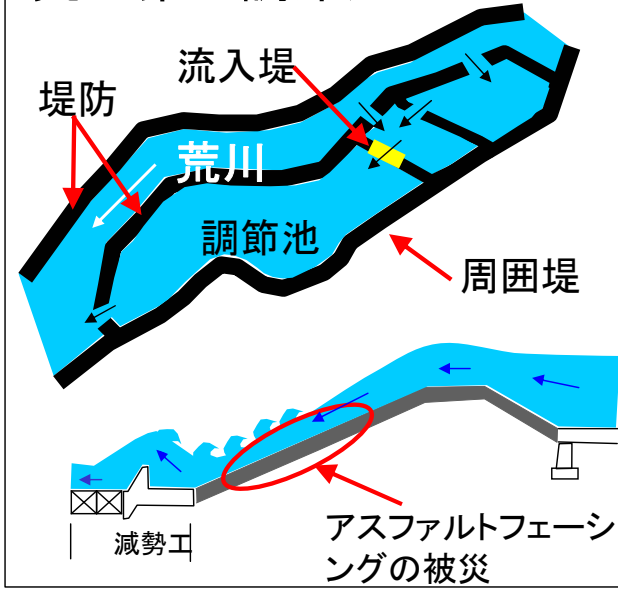
これらのことから川の中の洪水を流す替わりのものとして世界的にも歴史的にも例がない



同じ条件の実験でも越流の壊れ方は様々  
 越水に耐える時間も大きく異なる



## 荒川第一調節池



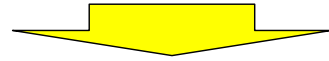
## 量と質の両面の対策を適確に実施

【 量 】 川の中の洪水を安全に流す(流す:掘削・引堤、貯める:遊水地・ダム)

【 質 】 堤防を強化する

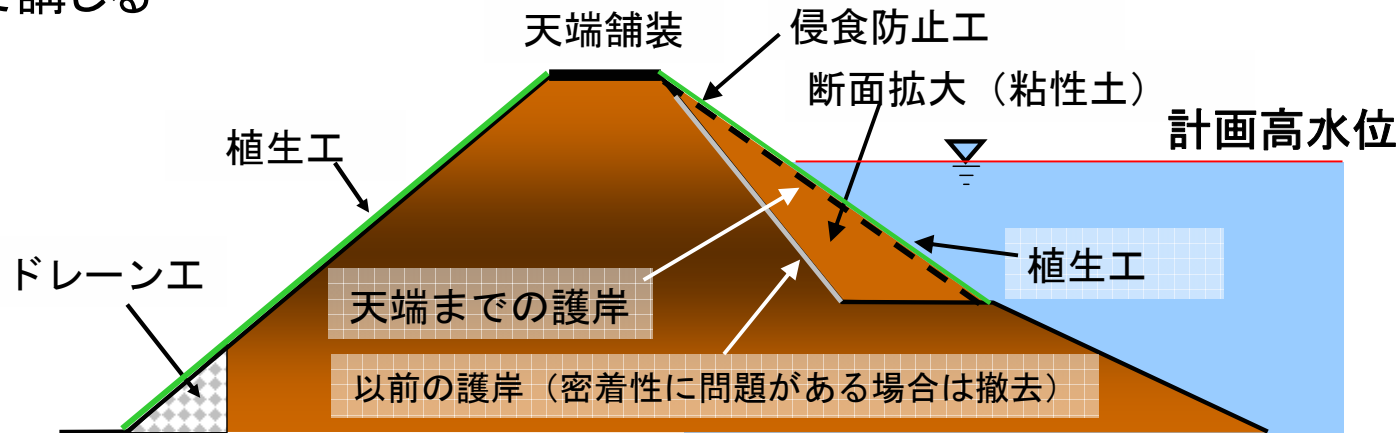
○越水対策は、技術的にも未解明であり、構造・費用対効果も不明な確立されていない技術。

○川の中の洪水を安全に流す代替案としては選択できない。



○淀川水系の標準的な堤防強化(信頼性の確保、できるだけ粘り強い構造化)

- ・計画高水位以下の流水(うねり等は天端まで到達)を安全に流す
- ・少しでも強い堤防が良いため、堤防天端の舗装、裏法対策等の越水にも資する様々な工夫を併せて講じる



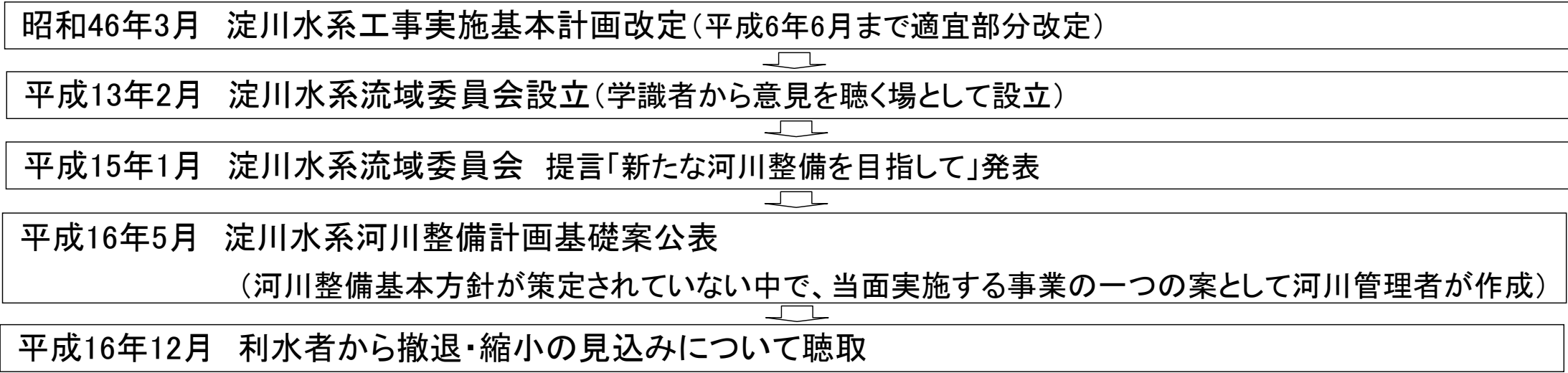
○淀川本川では、20.2kmの未対策区間(全体の約3割)を今後約5年で完了。

○宇治川、桂川、木津川では、49.8kmの未対策区間(全体の約4割)を今後約30年で完了。

全国で始めて堤防強化の内容と完了時期を明記した整備計画。堤防強化の取り組みでは全国トップ。

# 淀川水系河川整備計画の流れ（1）

## □これまでの経緯



平成17年7月 淀川水系5ダムについての方針公表(各府県の費用負担を考え、整備順序を検討)

丹生ダム •流水型で整備	大戸川ダム •必要性に変わりはないが当面実施しない •大戸川の治水対策の関係があり滋賀県と調整	余野川ダム •狭窄部(銀橋)上流の治水対策として、当該狭窄部の開削を先行して実施 •必要性に変わりはないが当面実施しない	川上ダム •利水を縮小して継続	天ヶ瀬ダム再開発 •継続
-----------------	---	--	--------------------	-----------------

### 滋賀県意見

- ・丹生ダムについては、水面のある約1億トン規模のダムとすること
- ・大戸川ダムについては、河川整備計画に明確に位置づけること

### 大阪府意見

- ・余野川ダムを当面実施しない場合において、府管理区間の治水計画との整合を図ること。
- ・利水撤退・事業中止が決定される場合において、ダム周辺の地域整備について地方財政に過度の負担を及ぼさないようにすること。

この方針はたたき台であり、河川整備計画の策定過程において、住民や学識経験者、関係自治体等の意見をよく聴取した上で、その対応方針を決定

# 淀川水系河川整備計画の流れ（2）

河川法に基づき以下の手続きを実施

平成19年8月16日 河川整備基本方針の策定

（各府県知事も参加した社会資本整備審議会での審議を経て河川管理者が作成）

平成19年8月28日 河川整備計画原案（意見聴取のためのたたきき台）の作成

学識者の意見聴取  
（流域委員会）

- ・委員会を24回開催

流域住民の意見聴取

- ・住民意見交換会を41会場で実施、約1,500名の方が出席
- ・新聞折り込み、HP等様々な方法により約3,600名から意見等

自治体の長の  
意見聴取

- ・流域市町村長懇談会を計3回実施し延べ75市町村が参加
- ・H19.12.28 に82市町村長からの意見書
- ・個別意見聴取として301意見

地元住民との対話  
プロセス（ダムについて）

- ・大津市、伊賀市、木之本町等で14回開催
- ・約300名が参加

関係府県との調整

- ・6府県の会議を8回開催
- ・その他、個別の問い合わせ等に随時に対応

河川整備計画（案）の作成

各府県知事経由

府県知事への意見照会

市町村長への意見聴取

河川整備計画の策定

可  
及  
的  
速  
や  
か  
に

## 流域市町村長からの意見聴取について

□「琵琶湖・淀川流域市町村長による懇談会」の開催状況

・3回開催で、延べ75市町村出席

□淀川水系河川整備計画原案と今後の河川整備に関する意見書(H19.12.28)

・琵琶湖・淀川流域全82市町村長からの意見書(参考資料参照:全体意見と市町村個別意見)

### 全体意見の概要

1. 流域住民の安全で安心できる暮らしの実現、河川環境の保全と水源地の保全・再生などの流域対策及び河川整備を一層推進
2. ・当面の目標を戦後最大洪水対応に留めることは止むなし  
・水害・土砂災害対策は河川整備の根幹であり最優先  
・河道の適正な管理(樹木伐採等)並びに既存洪水調節施設の有効利用及び長寿命化  
・計画的な河川整備やダム整備等を推進
3. ・まちづくりと一体となった河川整備にあたっては各市町村の特徴と自主性に十分配慮  
・河川敷の利用については、利用者の意見も踏まえた上で、適切な利用が行われる仕組みを構築
4. 緊急時の情報提供・技術的助言などの支援等を行い、流域一体となった水害に強い地域づくりの構築を支援
5. 安定的な水資源の確保と異常渇水に対する対策を確実に実施
6. 琵琶湖・淀川流域の市町村と河川管理者が一堂に会して意見交換を行う場を設立

□このほか、別途市町村長から個別に延べ26回にわたり御意見をいただき、さらに97市長村長からは意見書をいただいている。(すべてホームページで公開)

# 関係住民からの意見聴取について

## 意見聴取の方法

- ・住民意見交換会の開催：41会場で開催、約1,500名の方々に参加頂いた
- ・ご意見募集チラシの配布（返信用葉書添付）：約1,000名の方々からご意見を頂いた
- ・淀川水系河川整備計画ホームページの開設：約100名の方々からご意見を頂いた
- ・アンケートの実施：WEBモニターの方々約2,500名に実施

主な意見(中間分析、意見数の多いものから上位5つを抽出)

( ) は意見数

### 【人と川との繋がり】

- ・川をもっと知り、好きになってもらうことが大切 (64)
- ・河川管理者と住民との意見の交流が大切 (16)
- ・上下流・本支川の交流・調整が必要 (12)
- ・河川レンジャーを有効に活用すべき (7)
- ・美しい川を将来へ残すことが重要 (5)

### 【利用】

- ・運動公園などの整備を引き続き進める (196)
- ・人が水辺に親しみ、近づける整備が必要 (177)
- ・ウォーキング、サイクリング等ができる整備を望む (108)
- ・舟運を復活させるべき (48)
- ・河川でしかできない利用の促進を望む (37)

### 【河川環境】

- ・生物の生息・生育環境の改善が重要 (387)
- ・水質の改善を望む (139)
- ・ワンドの整備を望む (59)
- ・景観の保全が大切 (52)
- ・外来種対策が必要 (51)

### 【利水】

- ・水力発電を進めて欲しい (13)
- ・新たな水源の確保が必要 (11)
- ・節水型社会への転換を進めて欲しい (10)
- ・新たな水源が必要か疑問 (7)
- ・渇水への備えを進めて欲しい (6)

### 【治水・防災】

- ・ダムによる治水整備を望む (127)
- ・河道整備・護岸・築堤を進めて欲しい (114)
- ・防災意識の向上・ソフト対策の推進が重要 (76)
- ・治水対策は必要だが自然環境への影響を最小限に (61)
- ・関係機関の連携が重要 (47)

### 【維持管理】

- ・ゴミ対策のきめ細かな対応を進めて欲しい (127)
- ・違法行為・迷惑行為を是正して欲しい (89)
- ・河川の樹木をしっかりと管理して欲しい (88)
- ・河川内の除草をしっかりとやって欲しい (69)
- ・河床掘削・浚渫を行って欲しい (18)